

たより

『美紗の会』 ニユース

第23号

平成九年三月十五日

発行者 「美紗の会」
03-3441-2726
編集責任者 川邊紀恵

虹の会 開催にあたって

四月二十六日(土)
八芳園において

新緑の美しい春らんまんの季に山村千代恵、西松布咏による舞と唄の会が開かれることになった。

会場は八芳園の深い木立に包まれて佇む白鳳館。

八芳園は江戸時代初期に天下のご意見番として活躍した大久保彦左衛門老後の居とされ、その後は諸大名の下屋敷となり大正、昭和は政財界の巨匠久原房之助氏の別荘になったという由緒ある一万二千坪の敷地を持つ庭園である。

かつて舞や唄は、客と芸者による「お座敷あそび」としてもてはやされその優美な風情が後に劇場芸術として発展していったが今回はそんな良き時代にタイムスリップしていただくとうと企画した催し。

ひとつの楽しみは、新緑の庭を眺めながらの一杯の抹茶とお菓子。
美紗の会のマネージャー加藤氏の母親今川宗知師のお社中によるお手前が開演の前後のひとつときを。お菓子は茶人古田織部の故郷岐阜に店を持つ「吉野屋」が会の為にわざわざ作ってください。

ふたつめは、美紗の会の本郷公基氏の弟本郷葵虹氏による衣装と舞台上に揺れる屏風。ロビーにも力作が飾られ、夢のような虹染めに目を奪われることでしょう。

みつめは、松岡正剛氏によるお話。松岡氏はNHK未来潮流や日曜美術館などたびたび出演なされ、司会、編集、執筆に超多忙ですが、布咏師の大ファン。博多での日本宣伝デザイン会議、東京NEC本社での物語学会、岐阜のオリベ連発会式に師のコーディネートをして下さり、師と共に「織部好み」を発表するなど、古典文化を現代にアピールして下さる強力な救世主。さて今回はどんなお話が聞けるか「乞」期待！

よつめのお楽しみは、公演後の宴席。料亭壺中庵の料理長が虹の会の為に腕によりをかけて作って下さる春の懐石料理。暮れゆくお庭を眺めながら大名の気分を味わって下さい。

そしていつつめ(五つ)は山村、西松両師による舞と唄。優雅なお座敷におさわしい山

村師によるはんなりとした舞そして、アメリカ公演後の布咏氏の四畳半から宇宙へつながら唄をたつぷりと—
このように、たくさんの楽しみみの虹の会を開催するにあたって美紗の会一同のご協力を心からお願ひ致します。

チケット料金は
トータル料金 二万円
呈茶席、公演のみ 六千円
お申し込み
美紗の会
三四四一—二七二六
本郷
三三八七—七六四六
西松
三三六四—六〇九六
加藤
五三九五—九七六一



スコットランド・ゴルフ場

佐久間 俊治

まだ足腰が云うことを聞いてくられる間に海外の有名なゴルフコースでプレーの出来たらという夢を温めていた所。昨秋その機会に恵まれて夢が現実となった。

ゴルフ発祥の地であるスコットランドのセントアンドリュースのスタート予約が取れ、たどるスコットランドの友人Y君から連絡があり、早速9月末に遅い夏休みを取って出かけて行った。

ロンドンでY君と合流し、スコットランドのエンジンバラ迄は空路約一時間、そこから北海に面して多くの有名なコースが並ぶ通称ゴルフ銀座までは、なかなか丘陵地帯に牧場が続き、丁度刈り取られた干草の束の合間に羊や牛が点在するのんびりとした風景の中を車で約一時間の道程である。

9月末のスコットランドは観光シーズンもそろそろ終わりに近く、それでもアメリカからの観光客でゴルフ場は賑わっていた。どこのゴルフ場も予約が取りにくい故か、日本人の姿はあまり見かけなかった。

緯度が高い割には暖流の関係で温暖であり、気温は15度前後で日本の12月頃位の感じ。セーターを着た上にウィンドブレーカーをかぶって丁度良い位である。昔任んだパンクパーを思い出した。

北海から吹きつける風は止むことを知らず、行きが順風なら帰りは全部逆風になるというコースが多く、プレーした四日間共風には悩まされ続けた。

最初にミアファイールドという英国で(という事は世界で)一番古い二百年以上の歴史を持つメンパーコースでプレーしたが、もう既に翌年の7月迄予約は一ぱいとのことであった。

因みに此のコースはアメリカのカのプロ、ジャックニクラウスが大変気に入り、その名前を頂いてオハイオ州に同名の

コースを作ったことでも名を知られている。

大学生の良いキャディがついて、リンクスゴルフを満喫させて貰った。

二日目は隣町のノースパーウィックというこれも古くはひげを取らないコース、海辺を9ホール行き、突き当たって9ホールを戻って来るという典型的なリンクスコースで最初の半分をアウト、後半をインという意味が良く分かるような気がした。途中で尿意をもよおすが、見逃せど何もない。キャディに聞くと、トイレットは遠いからそのへんでしろと云う。北海に向かっただけからオシッコをする爽快さ。沖合をタンカーが航行中であつたが、向こうから見えなかつたことを折る。

Y君が所用で途中からロンドンへ戻つたので、三日目の一人旅となつた。

最初の日はニューコースの方を廻つたが、偶々地元の大學生三人組と一緒にプレーすることになった。

セントアンドリュースはスコットランド最古(イギリスは何でも最古が好きである)の大学だそうで経済専攻と云う。若者達とのプレーはとて楽しかつた。

三人共気さくでゴルフも上手く、此の日はキャディが居なかつたが、コースの攻め方を細かく教えてくれる。驚いたのは連れて来た夫が同行した事である。真黒な大型のラブラドルで、我々がグリーンでお坐りして待っているのは外口さ。名前はキティ(小猫ちゃん)。クラブの繁みにボールを打ち込むと飛んで行って一緒に探してくれる。

誰も文句を云わない所を見ると、ワンちゃん同行は禁止されてないらしい。パブリックコースとは云え、大らかなものがある。

いよいよ最終日は夢に見たオールドコース、此の日は岐

阜県から来たという三人組に入れて貰った。

そのリーダー格は女子プロ森口祐子さんのご主人で日本のアマゴルフ界では有名な人。皆さんお上手なので私も引こつ張られて良いスコアで廻ることが出来た。キャディの指示は私が通訳係を勤める形になったが、皆が殆ど云われた通りにプレーするのでもキャディ連も乗って来て、段々と指示が細かくなつて行くのが愉快であつた。

風に合わせたクラブを選んで渡してくれるのを、黙って受け打って打てばよく、行きは七番で打つた距離が帰りに三番だつたりする。

印象的だつたのは、グリーンの相当手前からでも、バタリを渡されたことで、後半は大分快調だが、矢張り日本とは解の状態が異なるので之が正解であることがあつて分かつた。

十七番グリーン手前に深いバンカーがあり、キャディの言によれば、嘗て全英オープンに捕まつてなかなか脱出出来ず、優勝のチャンスを逃したため、地元では通称「チカジマサンド」というのだとか。

「この人達は皆トミーを応援していたのでとても残念だつた。でも彼はグリーンへ上がつても悪びれず普通にパットをして十八番へ向かつた。その立派な態度に観客は拍手を惜しまなかつた」そうだ。

私のボールは中島サンドを避けたのは良かったが、グリーンを越えて道路へ出てしまいい、二つ目のトリプルボギーとなり散々であった。

風とクコ壺パンカーに悩まされた私のリンクス廻りも聖地の最後のホールをパーで上がつて終わりを告げた。

素晴らしい協力者だつたキャディに二十ポンドのチップを払うから十九番ホールで飲んだシングルモルトウイスキーが喉元に温かく広がって行つた一瞬が忘れられない。当分スコットランドに悪かれた状態が続きそうである。

(一九九七・統の節句)

会員紹介

本郷公基さん

会員紹介も回を重ねて沢山の方が登場しましたが、大切な方がまだ残っていました。いつも美紗の会の幹事役を務めている本郷さん、「たより」のことも何かと心配して毎回必ず原稿を書いて頂いています。

本郷さんは京都生まれ、父上は本郷大田子という染色家ですが、長男の本郷さんは、家業を継がず、次男が二代目大田子、三男の葵虹氏が共に虹染作家として、大いに活躍していらつしやいます。彼は同志社中・高校を経て京都大学経済学部を卒業し、国際的な仕事にあこがれ商社か海運をと考えていたが、性格がシヤイなので、三井船舶を選んだとのこと。労働組合の専従書記長、シカゴ駐在員、人事部、企画開発部長等を経て現在エムオーアカウンティング社長として活躍していらつしやいます。

師匠の演奏会には必ず忙しい仕事の合間をぬって聞きに来てくれる本郷さんは、穏やかなジェントルマン。そして、奥様は神戸出身の明るい方、お二人のなれそめは？と伺うと、阪神の海運企業労働組合連合会主催の納涼船で出会って生まれ初めて声をかけた女性だったとのこと。何故か誰もいない甲板に二人だけになって、自然に声をかけ話をしたとのこと。普通はそれだけで終わってしまうかも知れないけれど、そこで愛のキューピットが登場。同じ会社の橋

本さん(元美紗の会会員)が下船する時に「じゃあ僕は先に帰るから」と、いつになく手をさし出して、握手を求められ、おかしな思いいつつ握手をしたら、手の中に千円札が渡されていたとか。その後、彼女とお茶を飲んで、電話番号などを聞いて、交際が開始されたそうです。この話を聞いて、私は男性同志のさりげない友情に感動し、ジーンとしました。その後、彼女の病気療養生活等があったけれど三、四年後に結婚し、男女一人ずつの子供にも恵まれ、現在はステイションギャラリの学芸員をしているお嬢様と三人暮らし。

本郷さんの人生には深くキリスト教がかかりあつています。小学校4年生の時に終戦を迎え、愛国少年だった彼の価値観は、音をたてて崩れさりました。その彼が同志社の中学、高校で学ぶうちに、創設者である新島襄を理想の人間と仰ぐようになったそうです。当時彼の影響を受け、好きになった聖書の言葉が、神は愛なり。彼の解釈では神は愛そのものであり、愛が神であるということ。彼はクリスチャンではないのですが毎朝のお祈りは欠かさないそうです。

彼が長いサラリーマン生活の中で心がけてきたのは、一所懸命の哲学ということです。当たり前のことですが、自分の与えられた職分にベストを

尽くすこと、そのためにはイギリスの経済学者のマーシャルの言葉である、「クールヘルドとウォームハート」をビジネススポリシーにして、特に経営者に大切なのは企業競争に生き残る厳しさを認識しつつ社員全体の幸せを願う温かい心、それは優しい抱擁力のある愛であるという持論をお持ちです。

美紗の会にも、大変協力して下さるのは、まさにこの持論が息づいてのことと感じ入りました。常に彼の言っている、伝統芸を続ける為には、芸に惚れてスポンサーになる人が必要というのも、彼のキリスト教的愛の精神から根ざしているものでしょう。これからは美紗の会を持ち前の優しさで抱擁力で引っぱって下さるね。

最後に先生からのお言葉です。本郷さんは美紗の会に入会されて十数年たちます。前記述されているキューピット役の本郷さんの後釜として白羽の矢がたてられたとか。賛美歌を口ずさみ日本文化よりも西歐文化に心ひかれる本郷さんがなぜ熱心(?)に小唄のけいこをなさるのかやうやく疑問が解けたような気がしました。

美術展、観劇、海外旅行なども良くなり、美に対しての造詣の深さは、やはり父上の血を受け継いでのことと思えます。邦楽も自分がやるよりむしろ芸人を応援するスポンサーになりたいとか。

私が演奏会のチケットのやり繰りなどで悩んでいる時何気なく察知して「大丈夫ですよ。僕達は先生の芸と人柄にひかれてけいこしているのですから、自信を持って頑張ってください。応援しますから」と、励まして下さることもしばしばです。

その言葉は、本郷さんの唄には「日本的な湿度気」がなっています。邦楽は、節の上げ下げや唄と三味線の「ずれ」に、身をけずるほどの神経を使わねばなりません。本郷さんの声は、スカッとぬける青空のよう、大らかに澄んでいるので、細かいことは抜きにしてこういう唄があつても良いかしらと変に納得してしまうのです。

めをして下さいました。それが縁となり毎年訪れては、日本文学や日本語を学ぶ学生達に邦楽を聞いていただいています。

感動で涙ぐむ学生や、「あこがれの江戸時代にタイムスリップ出来た！」と喜ぶ学生達に接する時、私にも昔日本人が受けた教育の恩返しが少ないのも出来たかしら...と胸が熱くなるのです。

本郷さんの存在は、私の唄の幅をも広げて下さり、もしかしら美紗の会は、単なる

第十五回 おひきぞめ

邦楽愛好の会ではなく、慈愛に満ちた方々が集まって下さるのは、前世賛美歌を歌うミサの会だったからかもしれない...などとしみじみ嬉しく思うのです。

この春私はアムハースト大学に始まり、ウエスリン大学でのコンサート・コロンビア大学へと旅立つことが出来るのも皆様の御陰と深く感謝いたしております。

(文責 川邊)

二月九日 於くつろぎ
二月九日美紗の会おひきぞめが行われた。
おさらい会も、回を重ねること十五回、弟子同志も年々回数のおさらい会に加え、ここ数年は船上演奏会でも顔を合わせるの、和気あいあい。いつも早目に到着の商船三井組が定刻を過ぎてもあらわれない。さては下のピアホールで早くも一杯、と思つていたら案の定、紳士達は上げげんでご到着。

今回はおなじみの顔ぶれに、初舞台の鈴木さん、出産でお休みしていた田嶋さんが再登場し、にぎやかに幕があいた。第一部は皆余裕しやくしゃく笑い声が絶えない舞台で、中休みにビールで喉をしめして、いよいよ第二部へ

中堅、ベテランそれぞれの高橋さん、木下さん、内藤さん

も参加して、渋い喉を披露して頂く。最後に、松ぞくしを千寿文師匠が黒留袖姿も美しく、踊って、お聞きとなる。

宴会の部では、カラオケも登場して、本郷さんの歌から始まって(本番の舞台の時より元気が良い)大いに盛り上がる。

今回はゲストの方々の腕前に皆感心しい刺激となったと思う。次回の十月の十五年の会が楽しみである。

最後に師匠の感想は、よく練習してある人の伴奏は不安がないけれど、練習不足の人の伴奏は不安になるということ。皆さん！上達するには、努力あるのみです。毎日精進して下さい！

